

温風乾燥機による簡易殺蛹法

(養蚕経営部)

1. 背景とねらい

岩手県内では糸繭生産に伴って約3%の屑繭(中繭、玉繭)が発生している。屑繭は真綿・紬織の原料となり、その利用価値は高いものがあるが、一時に少量ずつ、多数の農家から発生し、上繭出荷後3~4日以内に殺蛹処理する必要があるため、集積と輸送コストがかさみ、その大部分が焼却により廃棄されているのが現状である。

個々の農家から発生する屑繭は少量のため、農家毎に発蛾前に殺蛹処理すれば、副蚕糸加工に随時利用しやすく、集積にも便利である。

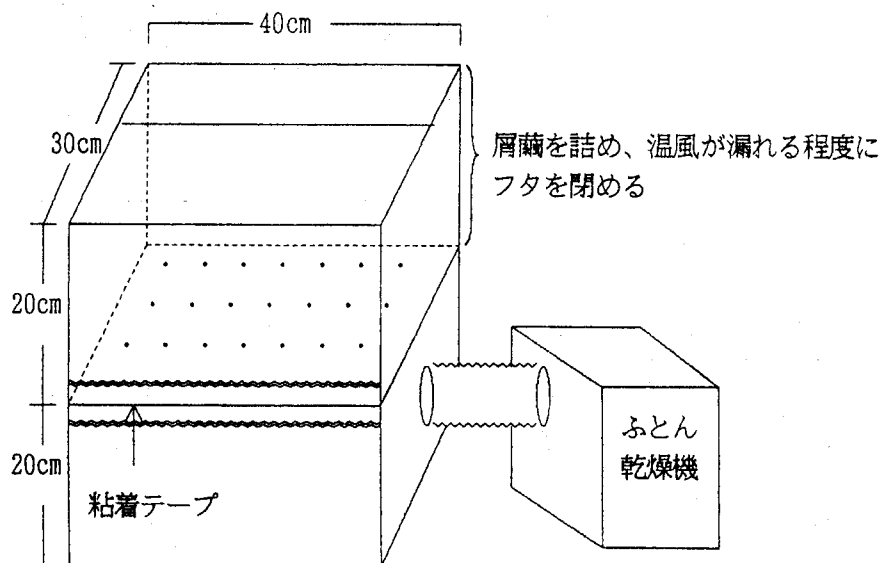
そこで市販のふとん乾燥機を使った屑繭の簡易殺蛹について検討したので参考に供する。

2. 技術内容

- 1) 段ボール箱を重ねた中間に穴を開けた容器の上段に屑繭を詰め、下段からふとん乾燥機の温風を通じる。
- 2) 温風は4時間以上通風し、内部の繭を切開し完全に殺蛹されていることを確認してから通風をやめ、放熱する。
- 3) 一度に処理できる量は4kg程度である。
- 3) 本簡易殺蛹法では、繭の乾燥としては不十分であるため、殺蛹後の屑繭はカビの発生を防ぐため網袋等に入れ通風の良いところに保管する。保管は1ヵ月程度可能である。
- 4) 殺蛹された屑繭は発蛾しないため、副蚕糸加工の材料として随時利用できる

図1. 簡易殺蛹容器の作成例

- (1) 容器の大きさは下図の程度
- (2) 下段の箱のふたを切り取り、同寸法の箱を重ね粘着テープで張合わせる
- (3) 上段の底に釘等で多数の穴を開ける
- (4) ふとん乾燥機のホースを入れる穴を開ける



3. 指導上の留意事項

- (1) 屑繭の長期保存を行う場合は、別途、乾繭処理が必要である。
- (2) 温風通風は目の届く場所で行ない、乾燥機に異常を感じたらただちに使用を停止する。

6. 試験成績の概要

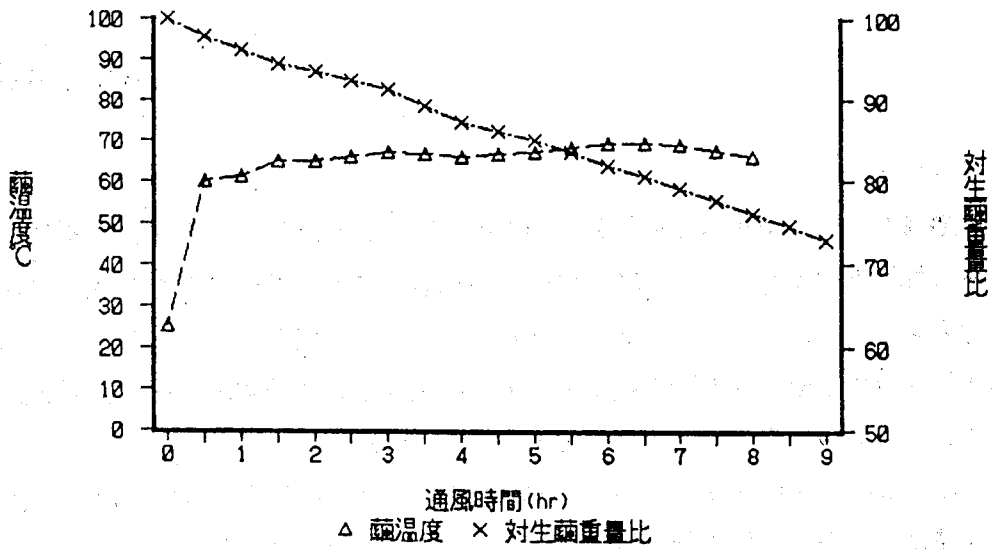


図2 通風時間による菌の変化
 乾燥機電気容量 630W、温風温度 110°C
 8時間目以降は通風を停止し放置